第13回英米文学科同窓会総会記念講演

ウォルター・スコットともう一つの「英文学」
――ヴィクトリア時代からモダニズム期の変容をめぐって

講師　松井 優子先生　（青山学院大学文学部英米文学科教授）

連合王国エディンバラ大学大学院修士課程英文学専攻修了、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻単位取得満期退学。2011 年 4 月より青山学院大学文学部英米文学科教授。専門分野は、イギリス小説、特に 19 世紀スコットランド文学。著書に『スコット――人と文学』（勉誠出版、2007 年）、共編著に『憑依する英語圏テクスト――亡霊・血・まぼろし』（音羽書房鶴見書店、2018 年）、共著に『読者ネットワークの拡大と文学環境の変化』（音羽書房鶴見書店、2017 年）、『旅にとり憑かれたイギリス人』（ミネルヴァ書房、2016 年）、『スコットランドを知るための 65 章』（明石書店、2015 年）他。共訳にコーネル・ウェスト『民主主義の問題』（法政大学出版局、2014 年）、ジリアン・ビア『ダーウィンの衝撃』（工作舎、1998 年）など。

Walter Scott (1771-1832)

スコット記念塔（エディンバラ市）

青山キャンパス、間島記念館 2 階の「青山学院資料センター」は青山学院に関する資料の宝庫ですが、そこに、ウォルター・スコット（Walter Scott, 1771 - 1832）の代表作『アイヴァンホー』（*Ivanhoe,* 1819）を原作とした『梅蕾餘薫』（1886 年出版）が所蔵されていることはあまり知られていないかもしれません。スコットとその作品は 19 世紀英語圏やヨーロッパ文学を代表し、この時期の英文学教育に必須の役割を果たしていました。その影響は日本にもおよび、スコットはシェイクスピアやリットン卿とともに、日本で最初に訳された英国作家のひとりでした。センターには「わが国明治期英語・英文学関係図書等も保存」（青山学院 HP）とあるように、上の『梅蕾餘薫』も「英語の青山」の長い歴史と実績を物語る蔵書の一つと言えるかもしれません。それだけではなく、たとえば、青山キャンパス図書館書庫の片隅にひっそりと眠る、スコットの小説第一作『ウェイヴァリー』（*Waverley*, 1814）の「6 ペンス版」を見つけたことも、スコット研究者にとって嬉しい驚きでした。こうした廉価版は 19 世紀末に数多く出版されたものの、普及版ゆえに図書館に所蔵されていない場合も多く、実物に接する機会は貴重だからです。

Scott の居所 Abbotsford
（スコットランド、ボーダーズ地方）

上記 Abbotsford の Scott の書斎

本講演では、青山学院所蔵のこれらの文献を出発点に、まずは 19 世紀末のスコット作品の受容を追ってみます。そのうえで、そこから見えてくる、ヴィクトリア時代からモダニズム期にかけての英文学教育とその変容について皆さんとともに考えてみたいと思います。（講師）